

Photo & Text = Takaji Ochi

SpecialThanks=クイーンズランド州政府観光局、
DEEP SEA DIVERS DEN、
SPIRIT OF FREEDOM (TUSA DIVE)、
MIKE BALL (DIVE 7 SEAS)

Design = PanariDesign

Interact with the minke The Great Barrier Reef, Australia

現地ガイドが、「時期さえ間違えなければ、
遭遇率は100%です!」と豪語する、
オーストラリアはグレートバリアリーフの
ミンククジラとの海中遭遇。
果たして、それは真実なのか?
今回、それを実証するために、
3隻のクルーズ船に乗船。
ミンククジラとの遭遇確率を検証した。

遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか?

GBR! 魅惑のミンキークルーズ

2015 Winter [GBR]

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ



ロープにつかまり、ミンキーを探す



01



02



03

大興奮! 初ミンキー海中遭遇

ボートの船尾などからフロートにつながれて、海面に流された数本のロープ、通称マーメードロープに掴まって、船上からクルーが「あっちだ、あっちに来て！」と指差す方向を確認しながら、海中を凝視する。すると、うっすらと巨大な影が通過していった。「出た！ミンキーだ!」。同時に、掴んでいたマーメードロープを小脇に挟み込み、カメラハウジングをそちらに向けて構える。

しばらくすると、またうっすらと巨大な影が姿を現した。しかも、今度は徐々にこちらに接近して来る。ロープを離して、こちらから接近したいと、はやる気持ちを押さえて、(ミンキーちゃん、もう少し、もう少し、こっちに来て!)と心の中で念じながら、ミンキーの接近を待ち受ける。なんとなく、一度視線を逸

らした方が寄ってくるかとも思い、一瞬視線を下に向けた。その瞬間、(うわっわ! 真下じゃん!)。なんと、前方

のミンキーに気を取られている間に、僕の足下に、別のミンキーが浮上してきていた。僕は前方のミンキーに向けていたカメラを、慌てて下に向けて。浮上して来るミンキーを捉え、夢中でシャッターを切った。

ミンキーは、足下ストレスまで浮上してきて、カメラを構える僕をしばらく観察しながら、慌てる事も無く、ゆっくりと泳ぎ去った。

(こんなに寄ってくるんだ!)と興奮も覚めやらぬうちに、1頭、またもう1頭、気づくと、なんと7頭ものミンキーに周囲を取り囲まれていた。(うわ~! すご~! こんなに集まって来るんだ。すご~!)。僕は、カメラを構えながら。どのミンキーを撮影すればいいのかと、マーメードロープに捕まったまま、海中を360度回転し続けていた。



正面から向かってきたミンキー

遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか?

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ

大興奮!
初ミンキー海中遭遇

足元から潜水艦のよう
にゆっくりと浮上し
てきた、ミンキーを夢
中で撮影した



遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか?

GBR! 魅惑のミンキークルーズ

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ

以前から、グレートバリアリーフで、ミンククジラ（以下ミンキー）に遭遇ができるというのは知っていた。だから、いつかは会いに行ってみたく思っていたが、持っていた情報は曖昧だった。ベストの時期がいつなのか？ どういうスタイルなのか？ ダイビングなのか、スノーケリングなのか？ どの船に乗船すればいいのか？ 今一把握していなかった。しかし、「時期さえ外さなければ、ほぼ100%遭遇可能ですよ」現地ガイドのその言葉を信じて、「ミンキー遭遇のベストシーズン」にGBRに訪れることにした。

「グレートバリアリーフ（GBR）って言えば、やっぱりミンキーが見たいな〜」と前回（2013年8月末〜9月頭）のGBRロケで何度も口にしてきた。GBRは、ミンキーの中でも最小のドワーフミンククジラが見れる海域として知られている。しかし、そんなに遭遇確率は高くないものと思っていた。

ところが、現地でガイドに「次はミンキー」と伝え、「あ〜、ミンキーですか？ そんなの、時期とポイントさえ間違えなければ簡単に見えますよ。ほぼ100%見えます」と、まるで「あ〜、クマノミが見たいんですね？ そんなの、いつでも見せれますよ」と言われているくらいに、至極当然といった感じの返事が返ってきた。

「なんなら、今回のロケはミンキー特集にしますか！」ってそんなに安直に決めちゃっていいのかな？ 撮れなかったらどうするの？という僕の思いとは裏腹に、TUSA DIVEのテルさん、DEEP SEA DIVERS DENのセイジさん、DIVE SEVEN SEASのゲンさん3人の意見もあっさり一致。鯨類好き

時期さえ間違えなければ、
「ほぼ100%の遭遇率」という言葉を信じて

の僕が、「No」と言う理由も無く、次期GBRロケの特集内容は、それぞれの会社が出している、「ミンキークルーズ3社乗り比べ」という事に決定した。

大物って、そう簡単に見れるものじゃないし、ましてや撮影となるとさらに難しい。しかし、遭遇率はほぼ100%と言われると、ウェブマガジンで使えるインパクトのある写真が撮れるかどうかは、もうカメラマン（つまり僕）の腕次第ということだ。

それに、にわかには信じがたいのだけど、「ミンキーが良く出るポイントに行けば、停泊してるクルーズ船の真下に5〜6頭

01, ダイビング中にミンキーに遭遇したら、アンカーロープなどに掴まって動かないようにする

02, 合計7頭に取り囲まれた

03, 通過するときにこちらを見ているのがわかる

01

03



02

がやってきて、1時間以上グルグル回ったりしますよ」って……、そんなにフレンドリーなのか!? そこまで言われちゃうと、「見ただけど、撮影は難しかった」と言う言い訳も通用しなさそうな……。

ということで、自分の、「撮れなかったら、どうしよう」という不安な気持ちとプレッシャーは、まったく理解してもらえない感じで、2014年のミンキーベストシーズンに、3隻のクルーズ船に乗船して、どれだけミンキーに遭遇できるかの検証取材を行うことになった。

遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか？

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ

しかし、その時期が僕には問題だった。「ミンキーシーズンは、6月頭から7月末だが、100%の遭遇を狙うなら7月頭の2～3週間です」と言われたのだけど、自分はもう17年もの間、その時期はバハマでドルフィンクルーズを行っていた。だから、17年もの間、他のロケを入れたことすら無いのだ。これも今までGBRのミンキーとの縁が無かった理由でもある。しかも、ベストシーズンの6月末から7月頭の約3週間。100%の遭遇率を検証するには、ここを外す分けにはいかならない。

曖昧な情報だけだと、まあ、南半球の冬の時期に行けば、会えるんだろうとか、デイトリップで行っても会えるんだろうとか、勘違いして来る人も多いのだとか。

「ミンキーに会いたいのであれば、ミンキー狙いでリボンリーフNo.10エリアまで行くクルーズトリップに参加することです。デイトリップのエリアは、ミンキー遭遇率の高いエリアまで北上することはありません。」とのこと。

ということで、ミンキー“ほぼ”100%を検証するには、“6月末～7月頭の三週間”に開催されるミンキー狙いクルーズ”に乗船することが必須条件となる。

そのクルーズの大半が、3泊4日の行程で、ミンキー狙いでダイビングできるエリアに滞在するのは、多い船でも、せいぜい

2日。この短期間でちゃんと遭遇し、撮影できるものなのか？

絶対「狙う」気持ちも大切

今回、僕は、“ミンキー狙いクルーズ”と言ってはいたけど、全てのゲストがミンキーに執着していたわけではない。ミンキーはあくまでおまけで、ダイビングを楽しめれば良いと思って乗船していたダイバーも中には結構いた。

そういうダイバーと、僕らのように「是非でもミンキー！何を置いてもミンキー！」と思っているダイバーとでは、当然、ダイ



ビングスタイルも違っていた。

まずは、マーメイドロープに捕まって浮いている時間がまったく違う。のんびりダイビングを楽しみたいダイバーにとって、寒さに耐えながら、ロープに捕まってミンキーの出現を待っているのは、面倒くさいのだろう。「水中で



出た！」という情報が入ってからゆっくりでいいやと思っていると、遭遇のチャンスは当然減る。

僕らは、ロープが張られたら、「とにもかくにも、入る！」って感じで、ミンキーがいるかいないかわからないような状況でも海に入り続けた。船上から見えているミンキーも、ロープに捕まっていると、なかなかその場所に来てくれない場合もある。そんなときでも諦めず、ロープに捕まっていると、不意に何度も姿を見せてくれる場合もあった。

そんな時に、「ミンキー来たぞ！」って言われてから、「じゃあ、見に行こうかな」なんて気心では、自分から言わせると、悠長な事言ってるんじゃないよ！である。常に臨戦態勢。それが大物を見逃さない秘訣でもある。

そして、ダイビング中も、常に前後左右、特に頭上を見回し続けた。ほんの些細な影も見逃さないぞというくらいに、全神経を集中させていた。

こんな事書いていると、じゃあ普通に潜っていたら見れないのかと思われてしまいそうだが、見れるのは「かなり高確率で見れる」のだと思う。しかし、自分の場合、「見れた」だけではだめなのだ。「撮れた」だけでもだめ、「納得のいく写真が撮れること」が最低条件だから、こんなに張り詰めた感じに書いているけれど、見れるときには、見れちゃうものである。

早朝からトップデッキでミンキーを探すミンキーガール

ベストシーズンは、6月末～7月頭！
デイトリップでは遭遇困難。
とにかくミンキー狙いクルーズに乗船すべし！

遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか？

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ



01

02

ミンキークルーズだから、ミンキーがメインではあるけど、他にも様々な海洋生物との遭遇が楽しめる。コッドホールでは、餌付けで慣れた巨大なポテトコッドに遭遇できる他、ウミガメ、レパードシャーク

などの大物や、バラクーダ、ヨスジエダイ、ギンガメアジなどの群れなどなど。

圧巻なのは、ナイトダイビング。停泊した船の船尾には、



03

照らされたライトに集まってくるプランクトン目当てに集まってくる無数の小魚たち、そしてその小魚を捕食しようと集まってくる大型の魚たちやサメなどが入り乱れて、壮絶なシーンを堪能できる。

強かなライトを装着して潜ると、ロウニンアジやバラフエダイたちが、放し飼いの犬の散歩のようにワラワラと付き従い、ライトに照らし出された小魚たちを捕食するのに夢中になっていて、ダイバーが目の前にいることもお構いなし。

時には、体にぶつかってくることさえある。ミンキーを堪能したいか、それとも、バリエーションに富んだGBRの海の魅力に触れたいか。ミンキークルーズも、船によって特徴があるので、お好みに合わせた選択をした方が良いでしょう。

01, 停泊する船底に集まってきたギンガメアジの群れ

02, 根に群れるアカヒメジ

03, 頻繁に見かけるウミガメ



ナイトダイビングで目の前まで迫ってきたロウニンアジ

ミンキーだけじゃない

GBRクルーズの魅力



ホミー(隠れ根)周辺で群れるバラクーダ



04



05

04, レパードシャークにも遭遇

05, 巨大なポテトコッド

遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか?

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ



ミンキーガール

今回乗船した3隻のクルーズ船で共通していたのは、James Cook University に本部を持つ、リサーチ組織、ミンキーホエールプロジェクト (Minke Whale Project) から派遣されたリサーチャーが乗船していたこと。彼女たちは、ポイントに姿を見せたミンキーの個体数、出現時間などをチェックしたり、スイムを行っているゲストがちゃんとルールを守っているかどうかを監視する役目を担っている。なぜか、女性しかいないので、彼女たちは、「ミンキーガール」と呼ばれ、クルーズ中に、ゲストに対して、ミンキーのレクチャーなども行ってくれる。また、船上で、活動資金の寄付を募ったり、個体識別用に水中で撮影した写真の寄付なども募っている。ミンキーのことを知りたければ、彼女たちと仲良くなることをおすすめする。



ミンキークルーズ

プチ雑学 MEMO 4



ドワーフミンククジラ

2013年に、4頭のミンキーにサテライトタグをつけて、一番長い個体で90日間の追跡が可能だったとのこと。それまではっきり解明されていなかったGBRから移動したミンキーたちがどこへ行くのかが、オーストラリア東海岸を南下して、GBRから6000kmも下った場所であったことが確認できた。今シーズンは、さらに15個体のミンキーにサテライトタグを装着して、さらなる追跡調査を行っている。

サテライトタグ



マーメイドロープ

フロートをつけて船から流された長いロープ。スノーケリングでミンキーを見る場合には、必ずこのマーメイドロープを掴んでいなければいけない。最初は身動きが取りづらかったり、横にいる人が邪魔なような気がしたりするが、こちらがロープに捕まっていた、追いかけることを知っているかのように、ミンキーたちはこちらに近寄ってきてくれる。なので、とにかくロープに捕まって、冷静にミンキーがやってきてくれるのを待つ忍耐力が必要だ。最初に思っていたよりも、撮影にも支障がないことがわかった。



Balaenoptera acutorostrata、ヒゲクジラ亜目に属するクジラの種類。ミンククジラとしては、キタタイハイヨウミンククジラ、キタタイセイヨウミンククジラ、そして、GBRで見られるドワーフミンククジラの3亜種に分類されている。ドワーフミンキーは、3亜種の中でも小型のクジラ。6月末から7月頭にかけて、一般ダイバーがドワーフミンキーを見られる海域として、GBR北部に姿をあらわすことが知られている。体側面の模様がそれぞれの個体で違い、個体識別に利用されている。



遭遇率“ほぼ”100%は
真実なのか？

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link

https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ

今回、乗船した
3隻のミンキークルーズ船は
こんなかんじ

CruiserGuide

「ダイブセブンシーズ」(マイクボールJAPAN)スポイルスポーツ号

ダイブセブンシーズ | ミンクツアー 2014



とにかく ミンキー狙い!

明確にミンキー狙いなので、ミンキーが出れば、ダイビングをやめてでもミンキー狙いというスタイル。また、クルーズのコースもミンキーに合わせて決められるので、とにかくミンキーと心行くまで遊びたい人におすすめ!

日本と同じケア

ダイブセブンシーズは日本人を対象としたダイビングショップ。言葉に不安があったり、海外のダイビングスタイルに不安がある人でも、日本で潜ると同じ感覚で潜れるので安心だ。

ラグジュアリーな船旅

全長30mのスポイルスポーツ号は、設備

と居住性を追求した双胴船で、揺れにくい構造のカタマランタイプ。広いラウンジ・バー、サンデッキなど、快適な洋上生活を送れる。1ダイブごとのタオル、インスタントではないコーヒーが飲めるエスプレッソマシン、ディナーにアルコールの1杯サービスなどサービスも行き届いている。

>>> <http://www.dive7s.com/mink.html>



「ディープシーダイバーズデン」TAKA号

Cairns Diving Liveboard | Dive Courses Cairns | Diving on the Great Barrier Reef



リーズナブルに ミンキー狙い!

最もリーズナブルなクルーズで、その分、他のクルーズほどのサービスは無い。ただ、サービスといっても、タオルを通して1枚とか、Wi-Fiなし、食事の内容など、単純にかけられるコストが他より低いということで、スタッフのゲストに対するサービスの質は高い。問題なく快適に過ごせる。

たくさん潜りたいし、 ミンキーも欲張りしたい

最大1日5本潜れるTAKA号は、「とにかくたくさん潜りたい!」という人におすすめ。ただ、ミンキーシーズンは、キャプテンにもよるが、今回の取材では、かなりミンキーに力を入れるスタイルとなった。ダイビングのスケジュールを基本的に動いているものの、ミンキーが出れば、臨機応変

にスノーケリングをはさむなど、ダイビングもミンキーも楽しみたい人におすすめ。GBR歴15年の日本人ガイド・ヒロさんやGBR歴11年のマサさんがいるのも安心材料。

>>> <http://www.diversden.com.au>

>>> <http://www.taka.com.au>

※2015年4月より新ダイブスケジュールとなります。詳細は japan@diversden.com.au まで



「TUSA Dive」スピリットオブフリーダム号

Cairns Liveboard Scuba Diving-Great Barrier Reef & Cod Hole Cairns



ダイビング ミンキー狙い!

3日間コースは「コッドホール」、4日間コースは「オズプレイリーフ」。ダイビングをしっかりやりつつ、ミンキー狙うスタイルで、GBRの名物ダイビングもたっぷり楽しみながら、ミンキーも欲張りしたいダイバーにおすすめ。

ラグジュアリーな船旅

まず、専用シェフの作る食事が美味しい! また、かゆいところに手が届く、キメの細かいサービスが嬉しい。例えば、1ダイブごとのタオル、Wi-Fiフリー、インスタントではないコーヒーが飲めるエスプレッソマシン、ディナーにアルコールの1杯サービスなどなど。上質なサービスを受けながら洋上生活を。

日本人スタッフも乗船

国際色豊かなクルーズで、海外ダイバーとの交流も楽しみのひとつだが、言葉の不安を解消するために、日本人スタッフも乗船。洋上生活からダイビングまで、日本語で会話できるので安心。

>>> <http://www.spiritoffreedom.com.au>

✉ jp-info@tusadive.com (日本語専用メールや日本語対応)



運送率“ほぼ”100%は
真実なのか?

GBR! 魅惑のミンキークルーズ



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
https://oceana.ne.jp/series/minke_whale_201406

関連情報HPへ